

# 脳と才能

連載第2回

酒井 邦嘉

東京大学教授・言語脳科学者

「どの子も育つ、親次第」

「どの子も育つ、先生次第」

「どの子も育つ、私次第」

鈴木鎮一先生のお言葉を紹介しながら、その奥義<sup>おうぎ</sup>を科学で考えるという企画です。才能教育研究会がめざす「才能」には、どのような意味が込められているのでしょうか。そしてその才能は、脳のどんな働きに支えられているのでしょうか。

鈴木先生のこのモットーが、先日のグランドコンサートの参加者全員によって唱えられました。生徒のみなさんによる見事な演奏と集中力を目の当たりにして、私は何度も胸が熱くなりました。鈴木先生は、120歳を天国で迎えた今も、みなさんが高くよく育つことを見守ってくださっていることでしょう。

さらに鈴木先生は、次のように述べています。『「どの子も育つ、育て方ひとつ」です。言葉を自由自在に話しているすべての子どもたちは、言葉の才能という、すばらしい能力のひとつを育てられているのです。〔中略〕言葉ばかりの問題ではありません。人の心も、すべての能力も、『育て方ひとつ』なのです』（『才

能開発は0歳から』p.243-244)。「言葉の才能」については前回紹介しました。さまざまな才能が育つには、親と先生、そして私（生徒自身）という三者が大きくかかわります。

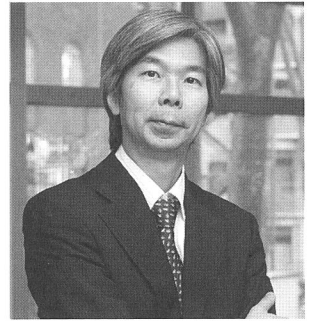
さて、親や先生による「育て方ひとつ」はよいとして、最後の「私次第で育つ」というのはどういう意味でしょうか。どんなことを心がけて日々の練習をしたらよいのでしょうか。こうした疑問の先には、脳に秘められた「意識」のはたらきがあると私は考えています。



物理学者のシュレーディンガー（1887-1961）は、遺伝学や脳科学にも深い興味を持っていて、晩年に行なった

講演を『精神と物質』（"Mind and Matter", Cambridge University Press, 1958年）という本にまとめました。「物質」の根源を研究したシュレーディンガーからすれば、物質だけからできている脳にどうやって心（精神）が生じるのか、不思議で仕方がなかったことでしょう。この本の中でシュレーディンガーは、「意識とは、教育を監督する教師である」と述べています。つまり、「私」という自意識（自分に対する意識）は、「自分の先生」だと言うのです。これはどのような意味なのでしょうか。

「意識」と一口に言っても、3つの段階<sup>き</sup>があります。第1は目が覚めている状態です。医学的に「意識がある」とい



酒井邦嘉 (さかいくによし)

1992年東京大学大学院理学系研究科博士課程修了、理学博士。専門は言語脳科学で、人間に固有の脳機能をイメージング法などで研究している。著書に『言語の脳科学』『科学者という仕事』『科学という考え方』(中公新書)、『脳の言語地図』『ことばの冒険』『こころの冒険』『脳の冒険』(明治書院)、『脳を創る読書』『考える教室』(実業之日本社)、『芸術を創る脳』『高校数学でわかるアインシュタイン』(東京大学出版会)。

うときはこの状態を指し、呼びかけに応じることなどで確かめます。第2は何か特定のものに注意を向けている状態です。何となく見えて聞こえるのではなく、目を向けたり耳を澄まして聴いたりするときのことです。そして第3の段階が自意識で、自分がしていることを自分でわかっている状態です。最初の2つの意識は動物に広くみられますが(どんな動物たちでしょう?)、最後の自意識は人間や類人猿にしかない脳のはたらきです。



シュレーディングラーの説になって、鈴木先生の考え方を想像してみます。初めて聞

く曲をヴァイオリンで演奏するとしましょう。最初は、指使いや運弓を意識して自分で確かめながら練習します。うまくできないところは、ゆっくりしたテンポで何度も弾き直すことでしょう。そうやって自分の弾き方や演奏に意識を向けているとき、その「私」は、まさに「自分の先生」となっているのです。

同じ曲を何度も繰り返し練習することで、だんだんつまずかずに弾けるようになります。そうすると、弾き方にそれほど意識を向けなくともよくなって、演奏に集中できるわけです。自動的に、つまり無意識的に弾けるようになれば、ピアノ伴奏や指揮など

にも注意を向けることができ、演奏を楽しむ余裕も生まれることでしょう。

鈴木先生が好んで使っていた「内なる力」という言葉は、この「自意識」に関係があり、自分を律する力、自分を自由にコントロールする力でもあります。その力が十分身につけば、「私」が自分の先生になるという日も近いでしょう。ただし、我流で弾いてしまうような未熟な段階で、自分が先生だと思いがったり、他に先生はいらないと考えたりするようではいけません。そのことを生徒に気づかせるのも、先生次第であり、親次第なのです。